

## 令和6年度第5回旭川市史デジタルアーカイブ検討会 議事要旨

日 時：令和7年3月21日（金） 午後6時00分から午後7時00分まで

場 所：旭川市総合庁舎2階 臨時窓口スペース

出席者：参加者8人（50音順，敬称略）

海老名 尚，小林 蒼斗，斉藤 真理子，高橋 健史，

谷口 雅彦（リモート参加），東海林 柚希，那須 敦志，平塚 清隆

事務局3人

総務課長補佐 岡田，総務課主査 安江，総務課 高島

傍聴者0人（市民0人，報道0人）

議 事：事業の報告について

### 議事 事業の報告について

事務局から，事業の報告として，令和6年度の取り組みとして進めてきた編集方針や旭川市史デジタルアーカイブの公開前のテスト画面，現在議会に諮っている新年度予算（業務委託，検討会，補助金等）の説明を行った。

参加者の発言等（主にアーカイブについての感想）は次のとおり。

#### 【参加者】

デジタルアーカイブの画面を見て，面白いなと感じた。

ぜひ色んなところを見たいなど。地図の重ね合わせも，自分で縮小や拡大をしたいと感じた。

#### 【参加者】

まず編集方針は，前回意見を出した，未来の方向性のようなものもしっかり入っており，良い形になったという印象を受けた。

それから，アーカイブの画面は，写真や地図をズームできることが良いと思った。

あと，書籍の画像認識機能を使った検索は，新聞会社等でも出てきている。例えば，旭川と検索すると，旭川という文字を画像として認識して検索してくれるので，新聞であれば記事だけではなく，広告やお悔やみ欄，尋ね人等，全部検索してくれるので，思いもかけないような結果が出てきて見ることも出来る。そういう優れた技術が搭載できて良かったと思う。

あと，旭川の風景を撮ったパノラマ写真では，山に雪がかかっている良いと思った。山に雪があるのとないのとでは全然違う。旭川のアイデンティティだと思う。

#### 【参加者】

今日まで検討してきた中身が反映されているという印象を受けた。それと同時に，様々な人が

使えるデジタルアーカイブだと思うので、これをどう市民や市民以外の人に伝えていくか。この良さや使い方は検討会を重ねてきて分かっているが、それをほかの人たちにどう伝えていくのかということを深められたらと思う。

**【参加者】**

編集方針の1ページ目にある目的は、前回の意見も追加され、良くなった。(方針に掲げる)4つの目的を達成するためには、旭川市のことを見る、知る、考えるということが大事で、このデジタルアーカイブによってそれができると思う。子どもなりの視点でも、資料を見たり、考たり、価値づけしたり、分析したりできることに価値がある。

資料は、なかなか一般の人には目に触れづらい、手に取ることがないものだが、検索しやすく、目的に応じて触れたりできるということで、調べることはもちろん、未来の旭川にも繋がるのがとても良い。

**【参加者】**

思い描いていたようなものが出来あがっていると感じる。しかしこの次が大変。7年度から9年度まで、頑張ってもらいたい。

**【参加者】**

見やすく、なおかつ内容が充実していると感じた。これから年度を経て、新しいものを加え、良い形に変わっていくだろうということが感じられて良かった。パッと見たときに感じたのは、綺麗だなということと、少し寂しいなとも。あまり良い案は思い浮かばないが、例えばあさっぴーだとか、旭川を紹介するようなものがあれば、もっと見ていて飽きないのかなと思った。

**【参加者】**

思った以上に洗練されていて整理されていて、なおかつ今まで出された紙媒体の新旭川市史が反映されていて、検索機能もあって、専門的なことを調べたいという人に踏み込んだサイトだと思う。スタートでそこまで望めないのかなと思ったが、検討会や市、業者の方も含め、本気度がここに反映しているのではないかと思った。

写真のことで、編集方針の中で、デジタル化を終えた原資料の適切な所蔵、保管に努める旨の記述に関して、ぜひ踏み込んだことをやっていただきたい。一番の財産というのは実はこの原資料にある。皆さんでこの認識を共有していただければと思う。

また、サイトがオープンされ、旭川が日本全国、世界に向けて詳しく案内されることに期待したい。市民の方に理解していただくことももちろんだが、外側の人たちは考えている以上に、旭川のことを初めて知ったとか、こんなところなのかということがおそらくある。何かを検索したときに、このサイトに飛んで見られるようになると、例えば観光客が増えたりとかにつながる。

マスメディアで、例えば旭川を絡めたテレビ番組や旅番組、書籍を作ろうとしたときに、その自治体で作ったものを調べる。旭川市史の発行が止まっていた頃は、戦後の旭川があまり公に知られることがなく、後回しにされ、詳しい資料がある他の自治体にチャンスを取られてしまったのではということがある。旭川はわかりにくいから後回しにしようと。そういった意味でも、今

後このサイトによって、例えば映画の撮影や書籍、特集等、外からの風をどんどん呼び込めるような、PRという意味でも有効な手段になるのではないかと思う。今後も続けて行ってほしい。

#### 【参加者】

このデジタルアーカイブにより様々な使い方ができるようになると思っている。

編集方針も良く作られていて、ただコンテンツをとというだけではなく、アーカイブの本質的なところも抑えている。

懸念しているのは、これからのこと。今は新旭川市史という元原稿や今まで集めたものがあったからできたが、これからは暗中模索でやっていかなければならない。ここが本当に大変だが、体制を考えると、同じ市職員が専属でいるならばよいが、(異動で)人が変わることによる事業の継続性が悩ましいところ。

市職員は、通常の仕事を抱えながら、この編集作業を進め、計画を立て、補助金の獲得もしている。良いものができたと思うほど、もっとこうしたいという思いが出てくるものだが、これを受けとめられる体制を維持できるかというところ。どういう形で我々が協力できるのかというところを、また考えていかなければならないし、この検討会でも繰り返しとなるが、言及していかなければならないと思う。

最後にやはり、これは難しいだろうが、通史について。学術的なものを何らかの形で作っていかなければ、もったいないと思う。すぐに出来なくても、何らかの形で通史というものにアプローチしていくことについて、今後の検討会の中でも話題に挙げていかなければならないことなのかと思う。

#### 【事務局】

本日は令和6年度の事業の成果としてのデジタルアーカイブのテスト画面を見ていただき、概ね好意的な感想をいただけたが、指摘のとおりこれからが大変な作業になると考えている。

今後の編集体制については、市の限られた人員の中で他部局との連携を深め、組織として仕事の一貫性を保てるように、工夫して取り組んでいく。

また、これまでの検討会の意見のほか、アーカイブ公開による歴史研究への気運の高まりを通じて、様々な意見をいただくとと思うが、これらを今後の取り組みや検討に活かしていく。

今年度の検討会は本日が最後となった。参加者のこれまでの協力に深く感謝を申し上げる。

以上